



鴨川だより

第7号 令和4年 6月15日

生徒が主体的に未来を創る学校

人間にとって最も大切な人間力とは？

【生徒のみなさんへ】

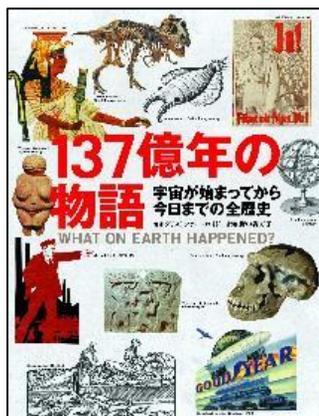
最近、生徒間のトラブルが表出しています。毎年恒例のように6月には様々なトラブルが起きるものですが、先生たちから報告を受けるたびに思うことがあります。生徒のみなさんに本当に社会を生きる力があるのか……と。荘内中のみなさんは規模の大きい学校といえども所詮はほとんど同じ人たちと9年間を過ごし、高校入学とともに周囲が初対面の人たちで埋め尽くされている生活を体験します。生まれも育ちも違う人たちとゼロから人間関係を作り上げる経験をはじめて体験することとなります。友達はどのようにしたら創れるのですか？関係が悪くなった人とはどうしたら関係を修復できるのですか？苦手な人とはどう接していけば当たり障りのない関係を継続できるのですか？そもそも友達って何ですか？

難しい取組ですね。加えて生徒のみなさんには、SNS上での人間関係という非常にやっかいなものがあります。仲が良かった人が他の人に自分の悪口を送っていたり、それを密告する人がいたり、それを聞いてトラブルが発生したり、無茶苦茶ですね。そうした時代で生きていくためにはどうすればいいのでしょうか？

人間社会を生きるための力って何なのか、考えてしまいます。世の中にはもっと悪意をもってだましやすい人を搾取しようとする人もいます。人間はそんな社会で、搾取されることなく、職場の人や近所の人、周囲の人と良好な人間関係を保ちながら幸せに生きていかなければなりません。みなさんは、中学時代にその訓練をしています。

価値観の違う人、何かをやらうとした場合に意気込みが違う人、いろんな人とうまくやっていくにはどうすればいいか、おそらくそれを学んだ人が人間にとって最も大切な人間力を身につけていくのだらうと思います。

正面突破、うまくいかない人間関係には、逃げることなく相手と話し合い、真意を確認するなど、SNS上ではない生身のぶつかり合いが必要かもしれません。謝ったり、謝られたり、そんなことを繰り返す、人は人として大きくなるのかもしれませんがね。そんな力は、学力よりも大切な人間としての大きな力であると考えていると思っています。人間って深いね、だから面白いのです。



校長先生が最近読んでいる本の紹介

【生徒のみなさんへ】

子どもの読書離れが叫ばれて久しいですが、読書は頭の中の想像力をかき立て、頭の幸せな時間を過ごす非常に意義あるものです。ネット社会では、読書に時間を費やすよりは、ネットで自分の好きな情報だけを取り入れたいと思うことも否定はできません。でも、読書っていいものです。最近、校長先生は深夜寝る前に「137億年の物語」を読んでいます。無茶苦茶面白いです。137億年前のビッグバンという爆発による宇宙の誕生から人類の誕生、人類の歴史の流れを教えてください。なんと137億年前の爆発は今も拡大しているそうです。人間ってちっぽけな存在だって思い知らされます。生きるって何だろう？考えてみてはどうですか？

ちなみに、校長先生の好きな作家は日本の探偵小説界を牽引した横溝正史です。中学時代は横溝小説を読みあさりました。調べてみてください。

生徒用のネット相談窓口を開設しています。悩みがあったら相談してください。右のQRコードからClassroom「荘内よろず相談窓口」に入れます。



【保護者のみなさんへ】

荘内中学校では、生徒の活躍や様々な学校の方針等を随時、学校ホームページで紹介しています。お暇などにはぜひご覧ください。右のQRコードでご覧いただけます。

※新型コロナウイルス感染症の感染状況は若干改善の兆しがあり、マスク着用についても

国の新しい指針が伝えられています。今後も大きく変わっていくことと思いますので国の方針にアンテナを高くしていただきたいと思います。

